

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000562		
法人名	有限会社すいせん		
事業所名	グループホームすいせん川南	ユニット名	2棟
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南19415-1		
自己評価作成日	令和5年12月18日	評価結果市町村受理日	令和6年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topiigvosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和6年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームすいせんの基本理念
 1. 利用者様に寄り添いながら、ゆったりと穏やかに過ごして頂きます。
 2. その人らしさを尊重し、居心地の良い環境の中で、自信や生き甲斐を取り戻して頂けるよう支援致します。
 3. 笑顔の絶えないグループホームの実現を目指します。

基本理念にそって、利用者様に寄り添いながら、一人ひとりの想いを丁寧に傾聴し、ゆっくと丁寧な優しい言葉で接し、楽しく穏やかな生活がおくれるよう、日々の介護に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは日当たりが良く、南側に芝生があり、散歩やお茶などして外気浴を楽しんでいる。職員は理念に沿って笑顔で寄り添うケアを目指し、職員同士も利用者共なんでも話せる雰囲気があり、仕事にやりがいを持っている。毎年、隣接する田んぼで近くの小学生が田植えや稲刈り学習をするので窓越しで見学して楽しく交流している。年4回のすいせん便りには行事の写真をたくさん載せ、一人ひとりの様子を報告して家族が安心できるようにしている。川南地区にある3ヶ所のグループホームとはなんでも相談できるような連携協力体制を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を目的のつく所に掲示したり、定例会で唱和したりして、常に職員の意識づけを行い、実践につなげるよう努力している		事業所の理念を玄関やリビングに掲示し、毎回、定例会で唱和して職員の意識づけを行い、実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防の為、利用者と地域の交流はなかなか難しい現状だが、散歩等の外出の機会は徐々に増えてきている。小学生の田植えや稲刈り見学は窓越しで見学交流している		コロナ禍で難しかった事業所周辺の散歩等も少しずつ増えてきている。又、毎年、窓越しではあるが小学生の田植えや稲刈り時に見学して交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の職場体験の受け入れや近隣の幼稚園児との交流の機会を設けていたが、コロナ禍により実施できていない			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を行い、民生委員や地区の班長、利用者様のご家族に出席していただき、意見やアドバイスをもらいサービス向上に努めている		役場や地域の代表者など多方面からの参加があり、利用者の状況や行事など報告し、活発な意見交換がされ、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき現状報告を行っている。また、分からない事は担当者が密に連絡を取り、相談している		役場の担当者が運営推進会議に参加し、認定調査にも役場の職員が来るので何でも相談している。又川南の他の3ヶ所のグループホームとも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険がない限り、玄関や窓の施錠はしていない。毎月、定例会にて身体拘束の実態把握を行っている。身体拘束に関するマニュアルを職員の目の届く所に置いている		身体拘束マニュアルを作成し、年2回の職場内研修の際は外部研修の報告やケースを通して振り返りや話し合いを行い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、職場内研修を実施し、外部の研修にも積極的に参加している。正しい知識と理解を持ち虐待が見過ごされないよう努力している			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者に成年後見人制度を必要とする方がおり、活用している。成年後見人とは定期的に連絡を取り、連携を図っている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入所時に契約書や重要事項説明書を示しながら口頭で説明し、理解、納得をいただいた上で署名、捺印をいただいている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に話せる雰囲気づくりを心がけ、面会時や電話連絡時等にご家族から意見や要望を出していただいている。利用者からは、日常の会話の中から意見や要望を引き出すようにしている		気軽に話せる雰囲気作りを心がけ、面会時や電話連絡の際に要望や意見を聞いている。部屋替えや散歩、外泊などできる限り要望に応えられるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会で自由に意見交換を行っている。日々の申し送りや業務中の情報交換の中でも、しっかり話し合っている		定例会や申し送りの時など自由に意見や提案ができ、介護の仕方を統一したり、議事録でみんなで話し合うなど、より良い介護ケアに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材不足で勤務体制に無理が生じているが、職員の希望にそった休暇や有給休暇は職員が自由に取得できるよう努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー研修や実践者研修に積極的に参加している。資格のない職員には、初任者研修を斡旋し働きながらでも資格取得できる機会を確保している			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の研修会へ参加している。また、研修で知り合った同業者と交流を深めサービスの質の向上を目指している			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面会や施設見学をしていただいている。ご本人の要望や想いを傾聴し、否定せず相手を受け入れ、安心していただけるよう努力している。ご本人の特性や習慣など、職員間で情報共有を図っている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の生活歴や家での様子や状態、ご家族の要望を伺っている。相談しやすい関係を築けるよう努力し、細かな情報交換を心掛けている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時に、ご本人やご家族と話し合い、状況に応じたサービス提供に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したりたたんだり、食器洗いなど、ご本人の出来る事を一緒に行い、感謝の言葉を述べている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診時や面会、電話等で現状報告をし情報交換をしている。帰宅願望が強いときは、ご家族様と電話で会話し、落ち着いていただいている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により時間の制限は一部あるものの、面会時は居室で会話を楽しんでいた	病院や花見の帰りなど利用者の自宅周辺をドライブしたり、家族や友人が来訪した際はできるだけ、居室で面会できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性等を考慮し、席の配置を検討している。全員で出来る体操やレクリエーションを取り入れている。利用者様同士のトラブルや孤立が無いように、職員が間に入り対応している			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も外部で会った時は、近況を聞かせてもらっている。また、何かあった時は、いつでもご相談くださいとお伝えしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から利用者様の希望や意向を聞き出し、職員同士で情報共有している。また意思疎通が困難な方は、表情や行動から思いを把握するように努めている	私の気持ちシートなど使い、利用者の思いを把握し、職員全員で共有している。コーヒーやケーキ、お寿司が食べたいとの利用者の要望の実現にも努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使いなれた物を施設でも使用していただいている。利用者様の生活歴・趣味等をご本人、ご家族からも情報収集し、職員同士で共有し把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の行動を観察し、介護記録や申し送りノートを活用しながら現状把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回、担当者がモニタリングを行っている。介護記録や日々の会話、ご家族の意向も伺いながら現状にあった介護計画書を作成している	毎月、担当者がモニタリングを行い、家族の意向や本人の状態、介護記録など職員間で話し合い、現状にあった介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の発言や行動を介護記録に残したり、申し送りノートを活用している。状態に変化があった時は、別紙記録に詳細を記入し、職員間で情報共有している			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況に応じて可能な限り希望に沿った対応を心掛けている。買い物代行、訪問理容、ガイドヘルパー等、臨機応変に行っている			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域の方との交流や外食支援等を行っていないが、施設内で、ご本人の力を発揮し暮らしを楽しむことができるよう努めている			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族でかかりつけ医を決定し、定期受診時は、担当者が情報提供書を記載、医師に報告し情報共有している。基本、ご家族に病院受診対応をしていただいている。無理な場合は職員が対応している	全員、入所前のかかりつけ医を受診をしている。受診時は情報提供書を持参し、家族対応が多いが付き添えない場合は職員が付き添うなどの支援が行われている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所との連携があり24時間対応。利用者様の状態や気づきを報告、相談し情報共有している。緊急時も指示を仰ぎ適切な処置が出来るように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、情報提供書、お薬情報を提供している。入院中は連携をとり日々の状況把握に努めている。また、早期の退院を目指しご家族や病院関係者と情報交換をしている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期のあり方について確認している。ご本人の心身の状態を見守りつつご家族の気持ちの変化もある事から、容態変化時は本人を含めご家族の終末期における意向を確認している	入所時に終末期の説明を行い、確認を行っている。まだ看取りの経験はないが定期的な訪問看護や協力医との情報共有や職員の役割、体制作りなど医療連携に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中、夜間の事故対応マニュアルを職員が常に目にする場所に置いてある。コロナ禍前は消防署による救急法や応急処置の講習を行っていたが、現在は実施できていない			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼間、夜間を想定した避難訓練を実施している。さらに、外部企業に委託し、通報・初期消火訓練を実施している。地域との協力体制は書面で報告し、意見交換を行っている	定期的に昼夜を想定した避難訓練が行われている。緊急連絡網やマニュアルで職員に意識づけ、地域の消防団、保守点検業者との協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに応じた、その人らしさを尊重した対応ができるよう、その都度工夫している。申し送りの際は、プライバシーに配慮しインシヤルで行っている		排泄の時は耳元で囁いたり、申送りの時はインシヤルを用いたりして尊敬の意をもって言葉かけている。男性は居室での活動を希望される方が多く、本人本位の対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話等からご本人の思いや希望を引き出し、自己決定できるような声かけを工夫している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位なケアにならないよう努めている。出来る限りご本人のペースに合わせ希望を取り入れ穏やかな日々が送れるよう支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の髭剃り、爪切り、季節に合った衣類の調整等、身だしなみに気を配っている。また、訪問理容も活用し清潔保持に努めている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には利用者様の好きな食べ物を尋ね提供している。献立を見える所に書き出し、食事前に伝えている。コロナ禍前は、職員も同じテーブルで食事していたが、現在は控えている		2名の調理専門の職員が栄養面や味付けなど考慮し、誕生日には利用者の希望する献立やケーキを準備している。利用者は台ふきなどできることを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりに合った食事形態や量などを工夫している。水分摂取が進まない方には好みの飲み物を提供している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声をかけ、利用者様に合わせた対応で口腔ケアを行っている。夕食後は義歯を洗浄液につけ清潔保持に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録を確認し、排泄パターンを把握している。行動を見逃さず、タイミングをみながら声かけや誘導を行っている。排泄の失敗や不快感を減らす努力をし、トイレでの自力排泄を促している		排泄パターンを把握し、声掛けして日中はトイレで排泄している。パッドの汚れが少なくなったり、布パンツになった利用者もあり、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を常に把握し、オリーブオイルやオリゴ糖、ヨーグルト等を提供している。医療機関と連携を図り、緩下剤の調整を行っている			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に配慮しながら週3回の入浴を基本に実施している。冬至にははず湯を楽しんでいた。入浴を嫌がる方には時間をずらしたり、職員が交代して声をかけたりし無理強いのない入浴を心掛けている		週3回、午後入浴が行われている。体調の悪い方や拒否のある方は時間や曜日を変更して対応している。はず湯など気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じ、寝具、温度、衣類等の調整を行い、気持ちよく眠れるよう支援している。利用者様の体調や様子に合わせ、いつでも休息がとれるよう準備している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬表を作成している。定期薬の変更等があった場合は、受診ノートや申し送りノートで情報共有し、服薬後の変化にも注意している			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や体操、レクリエーション等で気分転換を図っている。また、自ら進んでお盆拭きや洗濯物たたみをしてくださる場面も見受けられる			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良く、気候が良い日は、散歩に出かけ気分転換を図っている。定期受診はご家族と一緒に出かけられている。コロナ禍前は、外食支援も実施していたが、現在は実施できていない		コロナ禍前はいろいろな行事(外食、地域の祭り、敬老会)に参加していたが今はないので事業所周辺の散歩や花見で外気浴など園内行事を楽しんでもらうように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の金銭管理は難しいため、ご家族様管理としている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があった場合は、自由にお話していただき、ご本人から希望があった場合は、ご家族様へお繋ぎしている。書字練習等も取り入れている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは整理整頓し、清潔で気持ち良い空間づくりを心掛けている。玄関やリビングの壁面に季節ごとの飾り付けをし、一緒に製作した作品も掲示している	共有スペースは清潔で気持ちよく過ごせるよう温度、湿度に気を付けている。またリビングや玄関、廊下など利用者と一緒に作成した飾り付けがされ、季節を感じられる居心地よい空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろぎTVを観たり、気の合った利用者同士で雑談したり、居室で過ごしていただいたり、一人ひとりが落ち着く居場所づくりを心掛けている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたものや、思い出の物などを持ちこんでいただいたり、写真なども飾ったりしている。入所時に、新しく買い揃える必要がないことをお伝えしている	居室には馴染みの家具や写真など家族や本人と相談して持ち込んでいる。職員は利用者が安心して居心地よく過ごせるように寄り添うケアに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に表札を飾り、ご自分の部屋が分かりやすいよう工夫している。状態に応じて配置の変更等行い、安全な環境作りにも努めている			